

## おわりに

本書を手にとっていただき、最後まで読み進めてくださったことに心より感謝申し上げます。巻頭言でも触れましたように、「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」において「情報・科学技術を活かす能力」が新設されました。これは、非常に大きな変化だと思います。

もっとも、この新しい能力が具体的にどのようなものを指しているのかについては、皆で手探りをしているのが現状ではないかと思います。われわれ編集者もまた、本書の構想を練るにあたり、即座に完成像を描けたわけではなく、多くの議論を重ねてきました。「どうすれば薬学生や薬剤師にとって意味のある内容となるのか」「医療現場で役立つ能力とは何か」といった問いを前に、試行錯誤をくり返ししながら企画を考え、執筆者の先生方にも数多くご助言をいただきながら、ようやく一冊の形になった…というのが率直なところです。

そのような過程を経て完成した本書には、現時点で私たちが薬学生や薬剤師のデータサイエンスに必要と考える要素をできる限り盛り込みました。特に意識したのは、単に知識や技術を羅列するのではなく、「医療現場に存在する具体的な課題を解決するためにデータサイエンスをどう活かせるのか」という視点を伝えようということです。読者の皆さまには、本書を通じてその発想の端緒をつかむことができた、と感じてもらえていたら幸いです。

また、2022年11月のChatGPT登場を契機に、生成AIが急速に社会へ浸透し、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」には「生成AI」という具体的なフレーズは登場しませんが、当然今後の社会ではその適切な取り扱いに関する素養が求められるであろうという考えのもと、本書にはその内容を盛り込んでいます。このように、今後も新技術の波が起るたびに、社会が求める能力の具体的な内容も更新されていくでしょう。そのときには本書も改訂し、新しい知見や視点を反映させる必要があると考えています（できあがったばかりで少々気の早い話ではありますが）。今後のアップデートを見据え、本書を読んでのご意見ご感想、その他お気づきの点のある読者は、われわれ編集者か羊土社編集部にてぜひコメントをお寄せください。

なお、本書は入門書としての位置づけを意識して作成しています。薬学生や現場で活躍されている薬剤師の方々が実際に本書を手にとって学ばれた際、特に強い興味をもった分野はそれぞれ異なることと思います。ぜひ、ご自身が関心を抱いたテーマについて、各分野の専門書などによって、さらに学びを深めていただきたいと思います。

加えて、薬学教育を担う大学教員の先生方にとっても、講義の際に使用する教科書としてお役立ていただけるよう意図しております。2025年現在も、この領域は急速な発展が続いており、そうしたなかでどのようなパフォーマンスを示す薬学生を社会に輩出すべきか、そして、そこから逆算して具体的に何を教えるべきかについては、各所から「混沌としている」との声が聞かれます。本書が薬学教育や医療実践におけるデータサイエンス領域の道筋を少しでも照らすことができたなら、関係者一同にとってこれほど幸せなことはありません。

読者の皆さまとともに、この挑戦的な領域を歩んでいけることを心より願っております。

2025年12月

木下 淳，酒井隆全